

うさぎ（兎）と かめ（亀）との 話（はなし）

南方 熊楠（みなかた くまぐす）

【言（い）いかえてみました】



1891年、アメリカで撮った南方熊楠

まず、小学生（しょうがくせい）の 子供（こども）がよく知っている、うさぎ（兎）と かめ（亀）が、 駆（か）けっこをした 話（はなし）を しましょう。

これは 「イソップ物語（いそっぷ・ものがたり）」に 出（で）ているものです。（中略 ちゅうりゃく）

こんな物語（ものがたり）です。うさぎ（兎）と かめ（亀）と 会（あ）ったとき、うさぎ（兎）が、自分（じぶん）は とても足（あし）が 速（はや）いが、それに比（くら）べて かめ（亀）は 何と足（あし）が 遅（おそ）いんだと 笑（わら）いました。

すると かめ（亀）は、「そんなに言（い）うのなら、あなたと 駆（か）けっこを しよう。走（はし）る 長（なが）さは 5里（ごり）（約20キロメートル）、勝（か）った方が 5（ご）ポンド（イギリスのお金（かね）の単位（たんい）） もらうことに しよう。

どちらが勝（か）ったか、この話（はなし）を 聞（き）いている きつね（狐）に 見ていてもらおう」と 言う と、うさぎ（兎）は わかったと 言（い）いました。

「よーい、どん」で ふたりは 走（はし）り出（で）しましたが、うさぎ（兎）は もともと 素速（すばや）いので、たちまち、かめ（亀）の姿（すがた）が 見（み）えなくなるほど 遠（とお）くまで 走（はし）っていきましました。

あんまり 速（はや）く 走（はし）った うさぎ（兎）は 少し疲（つか）れたらしく、道（みち）の側（そば）に 生（は）えている草（くさ）の中（なか）に座（すわ）って、うとうとと 眠（ねむ）って しまいました。

うさぎ（兎）は 耳（みみ）が 長（なが）いので、 かめ（亀）が 音（おと）を立（た）てて側（そば）を通（と）ったら、たちまち跳（は）ね起（お）きて、 もう一度（いちど）走（はし）って、追（お）い抜（ぬ）くつもりで いたのです。

ところが、かめ（亀）を 軽（かる）く見（み）ていた うさぎ（兎）は、 眠（ねむ）り過（す）ぎてしまいました。

その間（あいだ）に、 足（あし）は 遅（おそ）いものの、 かめ（亀）は 力（ちから）いっぱい がんばって歩（ある）き、とうとう目的地（もくてき・ち）に 先（さき）に 着（つ）いてしまいました。

ここでやっと うさぎ（兎）は 目（め）を 覚（さ）ましました が、そのときには もう負（ま）けが 決（き）まっていました。

（文責 三谷雅純）

「十二支考 兎に関する民俗と伝説（付）兎と亀との話」
大正4年一月一日 『牟婁新報』



The Tortoise and the Hare, illustrated by Milo Winter in a 1919 Aesop anthology